

○玉名市地球温暖化対策実行計画 平成30年度進捗状況

1 温室効果ガス総排出量の比較

本市の事務事業における2018年度(平成30年度)の温室効果ガス総排出量は、基準年度となる2013年度(平成25年度)と比較して43.3%の減となりました。

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018
排出量(t-CO ₂)	14,003	13,123	11,689	10,616	10,366	7,945
予測排出量(t-CO ₂)	—	—	—	—	10,428	10,382
増減率(2013年度比)	—	-6.3%	-16.5%	-24.2%	-26.0%	-43.3%

2 電気・その他エネルギー別使用量の比較

電気やその他のエネルギーの使用状況は、以下のとおりです。

項目(単位)	2013年度 (基準年度)	2018年度	増減量	増減率
電気使用量(kWh)	18,711,939	17,750,501	△ 961,438	-5.1%
ガソリン使用量(ℓ)	60,364	66,392	6,028	10.0%
灯油使用量(ℓ)	267,459	251,668	△ 15,791	-5.9%
軽油使用量(ℓ)	9,275	6,815	△ 2,460	-26.5%
A重油使用量(ℓ)	425,201	365,690	△ 59,511	-14.0%
LPガス使用量(m ³)	30,934	22,104	△ 8,830	-28.5%

3 温室効果ガス総排出量減の主な理由

- ・公立小学校の統廃合、設備機器の効率化による電力及びその他のエネルギー使用量の減です。
- ・電力使用に伴う二酸化炭素排出係数の大幅な低減によるものです。

◆二酸化炭素排出係数とは◆

電気の供給1kWhあたりどれだけの二酸化炭素を排出しているかを示す数値のことです。

現在、本市の事務事業に必要な電力供給の大部分を担っている九州電力の本計画の基準年度である2013年度の二酸化炭素排出係数は0.613kgCO₂/kWhでしたが、2018年度には0.319kgCO₂/kWhと大きく低減されています。

九州電力に今後の排出係数の推移予測を確認しましたところ、「不特定な要因が多く、今後の推移についてははっきりとお答えできませんが、今後も更なる電力起因二酸化炭素の排出削減に努めていきます。」との回答でした。

4 今後の課題等

平成30年度における大幅な温室効果ガス総排出量の減少は、電力使用に伴う二酸化炭素排出係数が大幅に低減したことが大きな要因となっています。

電力使用に伴う二酸化炭素排出係数は不特定な要因が多く、今後の推移は予測できないため、係数が上がってしまうことも考えられます。

今後も継続して温室効果ガス総排出量を減少させていくには、係数だけよくなるのではなく、消費量自体を削減をしていくことが重要です。